

うき世のたわむれ

笑いつづける浮世絵と幕末明治の渦

Playing in the Ukiyo: Ukiyo-e's endless laugh in the vortex of Bakumatsu and Meiji

出品リスト 出品作品のデータは下記の順に記した。

作品番号 ■(前期のみ展示)/□(後期のみ展示)/■□(通期展示、頁替え)

作者名

シリーズ・書籍名/作品名

制作・刊行年

所蔵先(所蔵先の記載がない作品は全て当館蔵)

前期:2026.9.12(土)~10.12(月・祝) 後期:2026.10.15(木)~11.23(月・祝)

1 章

歌川広重の名所絵、戯画

1 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

日本橋 朝之景

天保 4-6 年(1833-35)頃

2 □

歌川広重

東海道五拾三次之内

蒲原 夜之雪

天保 4-6 年(1833-35)頃

3 □

歌川広重

東海道五拾三次之内

丸子 名物茶店

天保 4-6 年(1833-35)頃

4 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

藤枝 人馬継立

天保 4-6 年(1833-35)頃

5 □

歌川広重

東海道五拾三次之内

掛川 秋葉山遠望

天保 4-6 年(1833-35)頃

6 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

袋井 出茶屋ノ図

天保 4-6 年(1833-35)頃

7 □

歌川広重

東海道五拾三次之内

浜松 冬枯ノ図

天保 4-6 年(1833-35)頃

8 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

荒井 渡舟ノ図

天保 4-6 年(1833-35)頃

9 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

御油 旅人留女

天保 4-6 年(1833-35)頃

10 □

歌川広重

東海道五拾三次之内

赤阪 旅舎招婦ノ図

天保 4-6 年(1833-35)頃

11 □

歌川広重

東海道五拾三次之内

四日市 三重川

天保 4-6 年(1833-35)頃

12 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

庄野 白雨

天保 4-6 年(1833-35)頃

13 □

歌川広重

東海道五拾三次之内 鞠子

天保 12 年(1841)頃

14 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

金谷 大井川遠岸

天保 12 年(1841)頃

15 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

岡崎 矢はぎのはし

天保 12 年(1841)頃

16 □

歌川広重

東海道五拾三次之内 池鯉

鮒

天保 12 年(1841)頃

17 ■

歌川広重

東海道五拾三次之内

関 旅籠屋見世之図

天保 12 年(1841)頃

18 □

歌川広重

東海道五拾三次之内

土山 すずか山雨中の図

天保 12 年(1841)頃

19 □

歌川広重

東海道 二十 五十三次

府中

嘉永 4 年(1851)頃

羽生次郎氏寄託 (羽生雅則氏旧蔵)

20 ■

歌川広重

東海道 卅四 五十三次

二川

嘉永 4 年(1851)頃

羽生次郎氏寄託 (羽生雅則氏旧蔵)

21 ■

歌川広重

東海道 卅五 五十三次

吉田

嘉永 4 年(1851)頃

羽生次郎氏寄託 (羽生雅則氏旧蔵)

22 □

歌川広重

東海道 四十一 五十三次

鳴海

嘉永 4 年(1851)頃

羽生次郎氏寄託 (羽生雅則氏旧蔵)

23 ■

歌川広重

東海道 四十五 五十三次

石薬師

嘉永 4 年(1851)頃

羽生次郎氏寄託 (羽生雅則氏旧蔵)

24 □

歌川広重

東海道 五十五 五十三次

大尾 京

嘉永 4 年(1851)頃

羽生次郎氏寄託 (羽生雅則氏旧蔵)

25 ■

歌川広重

五十三次 沼津

嘉永 5 年(1852)頃

羽生次郎氏寄託 (羽生雅則氏旧蔵)

26 ■
歌川広重
五十三次 由井
嘉永 5 年(1852)頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

27 □
歌川広重
五十三次 鞠子
嘉永 5 年(1852)頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

28 □
歌川広重
五十三次 石部
嘉永 5 年(1852)頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

29 ■
歌川広重
江戸名所 上野不忍池弁天
ノ社
嘉永 6 年(1853)8 月
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

30 □
歌川広重
江戸名所 飛鳥山花見の図
嘉永 6 年(1853)8 月
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

31 □
歌川広重
即興かげぼし尽し
きりことふうろう つる
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

32 ■
歌川広重
即興かげぼし尽し
みみづく まつたけ
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

33 ■
歌川広重
即興かげぼし尽し
石燈籠 鷹にとまり木
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

34 □
歌川広重
即興かげぼし尽し
ふじの山 らんかんぎぼし
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

35 ■
歌川広重
即興かげぼし尽し
うさぎ 鉢植の福寿草
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

36 □
歌川広重
即興かげぼし尽し
入ふね 茶わんちや台
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

37 ■
歌川広重
即興かげぼし尽し
根上りのまつ 梅に鶯
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

38 □
歌川広重
即興かげぼし尽し
岩に雁 ねこ
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

39 ■
歌川広重
即興かげぼし尽し
塩引さけの魚 茶がま
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

40 □
歌川広重
即興かげぼし尽し
こんろにきびせう かんち
ろり
天保年間(1830-44)後期頃
羽生次郎氏寄託（羽生雅則氏旧蔵）

41 □
歌川広重
帳場 寺子屋
天保年間(1830-44)末頃

42 ■
歌川広重
お菊 芋蛸
天保年間(1830-44)末頃

2 章 歌川国芳の戯画、風刺画

43 ■
歌川国芳
狸のうりすへ 狸の引ふね
天保 14 年-弘化元年(1843-44)頃

44 □
歌川国芳
せんきもち 狸の七ふく神
天保 14 年-弘化元年(1843-44)頃

45 □
歌川国芳
狸のうらない 狸のかんぱ
ん
天保 14 年-弘化元年(1843-44)頃

46 ■
歌川国芳
みかけハこハるがとんだ
いゝ人だ
弘化 4 年(1847)頃

47 □
歌川国芳
人をばかにした人だ
弘化 4 年(1847)頃

48 ■
歌川国芳
色競付物けん
弘化 4 年(1847)頃

49 ■
歌川国芳
小倉擬百人一首 赤染衛門
弘化 4 年(1847)頃

50 □
歌川国芳
小倉擬百人一首 伊勢大輔
弘化 3 年(1846)10 月

51 ■
歌川国芳
小倉擬百人一首 三條院
弘化 3 年(1846)8 月

52 ■
歌川国芳
小倉擬百人一首 法性寺入
道前関白大政大臣
弘化 3 年(1846)8 月

53 □
歌川国芳
小倉擬百人一首 左京太夫
頭輔
弘化 3 年(1846)10 月

54 □
歌川国芳
小倉擬百人一首 皇嘉門院
別当
弘化 3 年(1846)10 月

55 ■
三代歌川豊国
小倉擬百人一首 崇徳院
弘化 4 年(1847)頃

56 □
三代歌川豊国
小倉擬百人一首 待賢門院
堀川
弘化 4 年(1847)頃

57 ■
歌川広重
小倉擬百人一首 殷富門院
大輔
弘化 4 年(1847)頃

58 □
歌川広重
小倉擬百人一首 入道前大
政大臣
弘化 4 年(1847)頃

59 ■
歌川国芳
荷宝蔵壁のむだ書（黄腰
壁、三代目関三十郎ほか）
嘉永元年(1848)頃

60 □
歌川国芳
荷宝蔵壁のむだ書（黄腰
壁、坂東佐十郎ほか）
嘉永元年(1848)頃

61 ■
歌川国芳
荷宝蔵壁のむだ書（黒腰
壁、八代目市川团十郎ほ
か）
嘉永元年(1848)頃

62 □
歌川国芳
荷宝蔵壁のむだ書（黒腰
壁、四代目坂東彦三郎ほ
か）
嘉永元年(1848)頃

63 ■
歌川国芳
きたいなめい医難病療治
嘉永 3 年(1850)6 月

64 □
落合芳幾
本道外画難病療治
明治 23 年(1890)

65 ■
歌川国芳
流行逢津絵希代稀物
嘉永元年(1848)頃

66 □
歌川国芳
浮世又平名画奇特
嘉永 6 年(1853)6 月

67 □
鬼の念仏（大津絵）
江戸時代(1603-1868)

68 ■
薙刀弁慶（大津絵）
江戸時代(1603-1868)

69 ■
瓢箪鯨（大津絵）
江戸時代(1603-1868)

70 □
藤娘（大津絵）
江戸時代(1603-1868)

71 ■
歌川国芳
道外浄瑠璃盡
けいせゐ返魂香 昔八丈
安政 2 年(1855)12 月

72 □
歌川国芳
道外浄瑠璃盡
糸桜本町育 膝栗毛
安政 2 年(1855)12 月

3 章 鯨絵、麻疹絵

73 ■
大地震火事略図
安政 2 年(1855)

74 ■□
仮名垣魯文著、歌川国芳、
歌川芳綱、豊原国周ほか画
『安政見聞誌』
安政 3 年(1856)
個人蔵

75 □
地震用心の歌
安政 2 年(1855)

76 ■
歌川芳綱
地震の供養
安政 2 年(1855)

77 □
野宿の図
安政 2 年(1855)

78 ■
骨抜どうせう なまづ大家
破焼
安政 2 年(1855)

79 □
雨にハ困ります 野じゆく
しばらくのそとね
安政 2 年(1855)

80 ■
鯨のけんくわ
安政 2 年(1855)

81 □
庶民を襲う大鯨
安政 2 年(1855)

82 ■
なんぢうやかぢ仮宅
安政 2 年(1855)

83 □
治る御代 ひやかし鯨
安政 2 年(1855)

84 ■
鹿島神の瓢箪鯨
安政 2 年(1855)

85 □
万歳楽鯨の後悔
安政 2 年(1855)

86 ■
瓢箪二二
安政 2 年(1855)

87 □
地震と火事の相撲
安政 2 年(1855)

88 ■
鹿嶋山要の石持
安政 2 年(1855)

89 □
じしん百万遍
安政 2 年(1855)

90 ■
鯨の切腹
安政 2 年(1855)

91 □
鯨の掛軸
安政 2 年(1855)

92 ■
ぢしんみやうさく 下徳散
安政 2 年(1855)

93 □
振出し鯨薬
安政 2 年(1855)

94 □
あんしん要石
安政 2 年(1855)

95 ■
面白くあつまる人が寄たか
り世が直るとてよろこべる
形
安政 2 年(1855)頃

96 ■□
十返舎一九著、貞之画
疱瘡請負 軽口ばなし
享和 3 年(1803)

97 ■
夏月か
唐子（疱瘡絵）
江戸時代(19 世紀)

98 □
歌川貞房
正一位八郎為朝大明神（疱
瘡絵）
江戸時代(19 世紀)

99 ■
歌川貞秀
疱瘡 麻疹 水痘
文久 2 年(1862)4 月

100 □
歌川芳艶
疱瘡麻疹鞘当かけ合
文久 2 年(1862)7 月

101 ■
歌川芳宗
麻疹流行年数
文久 2 年(1862)4 月

102 □
歌川芳虎
麻疹養生弁
文久 2 年(1862)4 月

103 ■
歌川芳虎
麻疹養生之伝
文久 2 年(1862)4 月

104 □
歌川芳員
麻疹養生禁物 おなじく宜
食物
文久 2 年(1862)4 月

105 □
歌川芳艶
開運麻疹疫神除之伝
文久 2 年(1862)4 月

106 ■
歌川芳虎
麻疹養生之伝
文久 2 年(1862)4 月

107 ■
豊原国周
麻疹元腹図
文久 2 年(1862)4 月

108 ■
歌川芳宗
麻疹を軽くする伝
文久 2 年(1862)4 月

109 □
歌川芳虎
麻疹養生弁
文久 2 年(1862)4 月

110 ■
歌川芳虎
麻疹養生之伝
文久 2 年(1862)4 月

111 □
落合芳幾
麻疹禁忌
文久 2 年(1862)4 月

112 □
歌川芳藤
妙医甲斐徳本麻疹之来記
文久 2 年(1862)7 月

113 ■
歌川芳盛
はしかおひはらい
文久 2 年(1862)7 月

114 □
歌川芳虎
道外三人上戸
文久 2 年(1862)7 月

115 ■
隅田了古
はしか落しばなし
文久 2 年(1862)7 月

116 ■
歌川芳盛
流行麻疹退散の図
文久 2 年(1862)7 月

117 ■
歌川房種
麻疹心得之図画
文久 2 年(1862)7 月

118 ■
歌川房種
麻疹養生のおしえ
文久 2 年(1862)7 月

119 □
歌川芳藤
麻疹退治戯の図
文久 2 年(1862)7 月

120 □
歌川芳藤
はしか童子退治図
文久 2 年(1862)7 月

121 □
歌川芳藤
麻疹退治
文久 2 年(1862)7 月

122 □
はやるはしかも今日翌ぱか
り
文久 2 年(1862)

4 章 將軍上洛もの、あわて絵、 合戦絵、子供遊びもの

123 ■
歌川貞秀
東海道箱根山中図
文久 3 年(1863)2 月

124 □
歌川貞秀
東海道薩陀峠之景
文久 2 年(1862)10 月

125 ■
歌川貞秀
源頼朝公大井川行列之図
文久 2 年(1862)9 月

126 □
歌川貞秀
東海道近江八景一覧之図
文久 3 年(1863)2 月

127 ■
歌川芳宗
東海道 本芝札ノ辻
文久 3 年(1863)4 月

128 □
二代歌川広重
東海道 大師河原
文久 3 年(1863)4 月

129 ■
歌川芳虎
東海道 神奈川
文久 3 年(1863)4 月

130 □
二代歌川国貞
東海道 戸塚

文久 3 年(1863)4 月

131 ■
二代歌川国綱
東海道 袋井
文久 3 年(1863)4 月

132 □
歌川芳盛
東海道 京都 紫宸殿
文久 3 年(1863)4 月

133 ■□
歌川芳虎
東海道名所図会
元治元年(1864)11 月

134 ■
河鍋曉斎
海上安全万代寿
文久 3 年(1863)7 月

135 ■
善悪しあんさい中
文久 3 年(1863)

136 □
太平優美論
文久 3 年(1863)

137 ■
新作浮世道中
文久 3 年(1863)

138 □
どきやうのはらの上
あわてといふ手
文久 3 年(1863)

139 ■
浮世は夢だ夢だ
慶応年間(1865-68)頃

140 □
河鍋曉斎
一寸見なんしことしの新ば
ん
慶応 3 年(1867)3 月

141 ■
二代歌川広重
鎌倉栄餅眷
慶応3年(1867)12月

142 □
源平武者の戯
慶応4年(1868)

143 □
当時流好諸喰商人尽
慶応4年(1868)

144 ■
狂画 芋だこ合戦のづ
慶応4年(1868)

145 □
夏の夜虫合戦
慶応4年(1868)5月

146 ■
屁合戦兵糧之図
慶応4年(1868)

147 □
鳥羽画巻物之内屁合戦
慶応4年(1868)

148 ■
道化六かせん
慶応4年(1868)

149 □
鎌倉三人なまゑい
慶応4年(1868)

150 ■
三代歌川広重
幼童遊び子をとろ子とろ
慶応4年(1868)2月

151 □
子供遊端午のにぎわい
慶応4年(1868)

152 ■
子供芝居忠臣蔵 四段目
慶応4年(1868)

153 □
子供遊端午の気生
慶応4年(1868)

154 □
子供遊び夏の栄
慶応4年(1868)

155 ■
子供あそび百ものがたり
慶応4年(1868)

156 □
子供遊花火の戯
慶応4年(1868)

157 ■
子供遊豆鉄砲の合戦のづ
慶応4年(1868)

158 ■
正札附身切もの大安売仕候
慶応4年(1868)

159 □
居酒屋の賑わい
慶応4年(1868)

160 ■
当世風行大団子
慶応4年(1868)

161 □
世の中のうらなひ
慶応4年(1868)

162 ■
河鍋暁斎
酒興教訓草
元治元年(1864)5月

163 □
昇斎一景
教訓酒は無量不可乱可慎之一也
明治5年(1872)11月

5章 開化絵

164 ■
昇斎一景
東京名所四十八景

隅田堤つつき木母寺遠景
明治4年(1871)

165 □
昇斎一景
東京名所四十八景
向嶋三紅亭座中
明治4年(1871)

166 □
昇斎一景
東京名所四十八景
飛鳥やま
明治4年(1871)

167 ■
昇斎一景
東京名所四十八景
洲崎乃汐干
明治4年(1871)

168 ■
昇斎一景
東京名所四十八景
御厩河岸あすまばし
明治4年(1871)

169 □
昇斎一景
東京名所四十八景
谷中諏訪の社廿六夜まち
明治4年(1871)

170 □
昇斎一景
東京名所三十六戯撰
さる若町
明治5年(1872)9月

171 ■
昇斎一景
東京名所三十六戯撰
両国花火
明治5年(1872)7月

172 ■
昇斎一景
東京名所三十六戯撰
柳はし
明治5年(1872)3月

173 □
昇斎一景
東京名所三十六戯撰
上野山王山
明治5年(1872)3月

174 ■
昇斎一景
東京名所三十六戯撰
開運はし
明治5年(1872)6月

175 □
昇斎一景
東京名所三十六戯撰
池の端不忍弁天遠景
明治5年(1872)6月

176 ■
昇斎一景
東京名所三十六戯撰
つきし海軍所
明治5年(1872)3月

177 □
昇斎一景
東京名所三十六戯撰
高なわ
明治5年(1872)3月

178 ■
昇斎一景
浅草並木人力車の賑ひ
明治4年(1871)8月

179 □
昇斎一景
筋違御門内人力車繁栄
明治4年(1871)7月

180 ■□
昇斎一景
『娘教訓二面鏡』
明治3年(1870)

181 ■□
昇斎一景
『教訓言黑白』
明治4年(1871)

182 ■
昇斎一景
因循開化流行撃劔会
明治 6 年(1873)6 月

183 □
河鍋曉斎
名鏡倭魂 新板
明治 7 年(1874)9 月

184 ■
月岡芳年
東京開化狂画名所
亀戸天満宮 本所吉田町
明治 14 年(1881)1 月

185 ■
月岡芳年
東京開化狂画名所
芝愛宕山 霞ヶ関
明治 14 年(1881)1 月

186 ■
月岡芳年
東京開化狂画名所
聖堂坂 湯島天満宮
明治 14 年(1881)1 月

187 ■
月岡芳年
東京開化狂画名所
千束酉の町 日暮里布袋
明治 14 年(1881)1 月

188 □
月岡芳年
東京開化狂画名所
上野公園地 不忍弁才天
明治 14 年(1881)1 月

189 □
月岡芳年
東京開化狂画名所
両国川開 内藤新宿
明治 14 年(1881)1 月

190 □
月岡芳年
東京開化狂画名所
新橋通街 新富坐
明治 14 年(1881)1 月

191 □
月岡芳年
東京開化狂画名所
洲崎汐干 鉄砲洲
明治 14 年(1881)1 月

6 章
錦絵新聞、西南戦争錦絵、
そして小林清親の風刺画へ

192 ■
落合芳幾
東京日々新聞 五拾号
明治 7 年(1874)9 月
個人蔵

193 □
落合芳幾
東京日々新聞 四百卅一号
明治 7 年(1874)頃
個人蔵

194 ■
落合芳幾
東京日々新聞 六百九十七号
明治 7 年(1874)頃
個人蔵

195 □
落合芳幾
東京日々新聞 八百三十八号
明治 7 年(1874)11 月
個人蔵

196 ■
月岡芳年
『やまと新聞』第二号附録
「近世人物誌 第壱 天璋院殿」
明治 19 年(1886)10 月

197 □
月岡芳年
『やまと新聞』第五十二号附録
「近世人物誌 第三 磯林大尉」
明治 19 年(1886)12 月

198 ■
月岡芳年

『やまと新聞』第百六十七号附録 「近世人物誌 第七 力士梅ヶ谷藤太郎」
明治 20 年(1887)4 月

199 □
月岡芳年
『やまと新聞』第二百十号附録 「近世人物誌 第九」
明治 20 年(1887)6 月

200 ■
月岡芳年
『やまと新聞』第二百三十六号附録 「近世人物誌 第十 錦織剛清」
明治 20 年(1887)7 月

201 ■
月岡芳年
『やまと新聞』第二百六十三号附録 「近世人物誌 第十一 花井お梅」
明治 20 年(1887)8 月

202 □
月岡芳年
『やまと新聞』第三百五十七号附録 「近世人物誌 第十五 木戸翠香院殿」
明治 20 年(1887)12 月

203 □
月岡芳年
『やまと新聞』第四百九十九号附録 「近世人物誌 第二十 徳川慶喜公御簾中」
明治 21 年(1888)5 月

204 □
小林清親
鹿児島新聞銘々伝
西郷隆盛
明治 10 年(1877)9 月

205 □
小林清親
鹿児島新聞銘々伝
本山全二
明治 10 年(1877)9 月

206 ■
小林清親
鹿児島新聞銘々伝
篠原国幹娘国女 児玉八之進妻玉江
明治 10 年(1877)9 月

207 ■
楊洲周延
西郷虎狼狸予暴魔茂痢奔損
明治 10 年(1877)10 月

208 □
三代歌川国貞
鹿児島嶋賊徒平定図
明治 10 年(1877)10 月

209 ■
月岡芳年
西郷隆盛一代期
明治 10 年(1877)12 月

210 ■
三代歌川国貞
鹿児島各県 西南珍聞 第二号
明治 10 年(1877)7 月

211 □
三代歌川国貞
鹿児島各県 西南珍聞 第三号
明治 10 年(1877)7 月

212 ■
月岡芳年
機嫌競 外妾 新聞記者
明治 15 年(1882)7 月

213 □
月岡芳年
機嫌競 賤妻 破落戸
明治 15-18 年(1882-85)頃

214 ■
月岡芳年
機嫌競 貧書生 倡婢
明治 15-18 年(1882-85)頃

215 □
月岡芳年
機嫌競 官員 岳母
明治 15-18 年(1882-85)頃

216 ■
小林清親
喜世知可保无地 東京三十
間堀
明治 14 年(1881)頃

217 □
小林清親
清親法夢痴 東京深川洲崎
明治 14 年(1881)頃

218 ■
小林清親
清親ぼんち
両国系こういん
明治 14 年(1881)頃

219 □
小林清親
清親放痴 東京隅田川牛島
明治 14 年(1881)頃

220 ■
小林清親
新版三十二相 ちわ喧嘩の
あと たかきがくをみる
ちかめ ゐねむりををこさ
れ
明治 15 年(1882)

221 □
小林清親
新版三十二相 どもり 芥
子がきいた じやらつき
遠見アアきれいきれい
明治 15 年(1882)

222 ■
小林清親
新版三十二相 まごあやし
はぢかれ あつい湯 ヲヲ
くさい
明治 15 年(1882)

223 □
小林清親

新版三十二相 ヤレヤレく
たびれた びつくり なき
上戸 つんぼ
明治 15 年(1882)

224 ■
小林清親
三十二相追加百面相 かね
つけ いぢわる 髪結 し
かられ
明治 16 年(1883)

225 □
小林清親
三十二相追加百面相 孝女
の神信心 権妻のうわべの
りんき 奥方内心の悟気
芸妓の内幕
明治 16 年(1883)4 月

226 ■
小林清親
三十二相追加百面相 歯い
たみ 霧ふき 歯みがき
むねつかへ
明治 16 年(1883)

227 □
小林清親
三十二相追加百面相 容体
ぶる 相撲見物 髭ねじり
見て見ぬふり
明治 16 年(1883)

228 ■
小林清親
三十二相追加百面相 いや
な後家 浄瑠璃 怒る は
ね炭
明治 16 年(1883)

229 □
小林清親
三十二相追加百面相 たち
ぎき くらやみ ウントコ
おもたい おおかいい
明治 16 年(1883)3 月

230 ■
小林清親
酒機嫌十二相之内 悪口を

云って人に腹を立てさせる
酒癖
明治 18 年(1885)5 月

231 □
小林清親
酒機嫌十二相之内
色情気付く酒癖
明治 18 年(1885)5 月

232 ■
小林清親
酒機嫌十二相之内
陰で腹をたつ酒癖
明治 18 年(1885)7 月

233 □
小林清親
酒機嫌十二相之内
三人上戸酒癖
明治 21 年(1888)7 月

234 ■
小林清親
酒機嫌十二相之内
独で気取る酒癖
明治 21 年(1888)7 月

235 □
小林清親
酒機嫌十二相之内
機嫌の宜なる酒癖
明治 21 年(1888)8 月

236 ■
小林清親
御東景 頓知の雨よけ
明治 28 年(1895)12 月

237 □
小林清親
御東景 椅子のくづし
明治 28 年(1895)12 月

238 ■
小林清親
御東景 太夫の困しみ
明治 28 年(1895)12 月

239 □
小林清親

御東景 轆轤頭馬車に乗ル
明治 28 年(1895)12 月

240 ■
小林清親
教育いろは談語 い
医者の不養生
明治 30 年(1897)2 月

241 □
小林清親
教育いろは談語 に
人を見て法を説け
明治 30 年(1897)3 月

242 ■
小林清親
教育いろは談語 へ
下手の横好
明治 30 年(1897)3 月

243 □
小林清親
教育いろは談語 ぬ
盗人を見て縄を絆ふ
明治 30 年(1897)9 月

244 ■
小林清親
教育いろは談語 を
陰陽師身の上知らず
明治 30 年(1897)9 月

245 □
小林清親
教育いろは談語 よ
用心に如ハなし
明治 31 年(1898)2 月

246 ■
小林清親
教育いろは談語 れ
礼も過れば諂ひとなる
明治 31 年(1898)3 月

247 □
小林清親
教育いろは談語 つ
角を矯めんとして牛を殺す
明治 31 年(1898)

関連イベント情報

記念講演会

①「明治版画の動向と戯画・風刺画」

9月21日(月・祝)14:00～15:30

講師:岩切信一郎氏(美術史家)

定員:100名(先着順)

会場:講堂 ※本展観覧券(半券可)をご用意ください。

②「幕末風刺画に見るわらい」

10月17日(土)14:00～15:30

講師:大久保純一(町田市立国際版画美術館館長)

定員:100名(先着順)

会場:講堂 ※本展観覧券(半券可)をご用意ください。

0歳からOK!親子で楽しむ浮世絵ツアー

①10月28日 ②10月31日 いずれも10:15～11:30

対象:0歳から小学生とその保護者

定員:各回10組(申込順)

講師:富田めぐみ氏(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンド

シップ協会代表理事)

会場:講堂、企画展示室

受付開始:9月25日(金)12:00～

イベントコード:260925A

※町田市イベント申込システム「イベシス」HPあるいはイベントダイヤルでの事前申込が必要です。申込期間、詳細については当館HPをご覧ください。

担当学芸員によるギャラリートーク

10月3日(土)、11月8日(日)

会場:企画展示室

講師:宮崎黎

※本展当日有効観覧券をご用意ください。

プロムナード・コンサート

「時を渡る和の響き—ジャポニズムの余韻」

11月21日(土) 第1部:13:00～ 第2部:15:00～

(各回30分程度)

会場:エントランスホール

出演:アンサンブル Vav.

原山佐保子(クラリネット)、中村匡宏(ファゴット)、

中尾紗知(ピアノ)

※鑑賞無料

うき世のたわむれ:笑いつづける浮世絵と幕末明治の渦

2026年9月12日発行

町田市立国際版画美術館

Machida City Museum of Graphic Arts

〒194-0013

東京都町田市原町田4-28-1

☎ 042-726-2771

HP <https://hanga-museum.jp/>

版画美術館公式アカウント

Instagram @machida_hanbi

X(旧Twitter) @machida_hanbi

イベント情報や展示作品解説などを発信中! フォローお願いします♪

3,000部作成、1部あたりの単価12円(職員人件費を含みます)